

【特集】第29回国際労働問題シンポジウム

グローバル・サプライチェーンにおける労働の課題

特集にあたって

2016年10月4日、第29回国際労働問題シンポジウムが、法政大学市ヶ谷キャンパスで開催された。1987年に始まったこのシンポジウムは、2003年以降、法政大学大原社会問題研究所とILO駐日事務所との共催で、また2011年以降は日本ILO協議会の後援を得て開催されている。

シンポジウムは原則として、その年のILO総会の議題のなかから、日本との関係でとくに重要な議題をテーマとして取り上げているが、今回は、第105回ILO総会における第4議題「グローバル・サプライチェーンにおけるディーセント・ワーク」を取り上げた。ILOは創立100周年（2019年）に向けて「労働の未来」について議論を始めたが、サプライチェーン（世界的供給網）は「労働の未来」と深くかかわるものであり、日本の労使にとっても対応が迫られる重要な問題である。

シンポジウムの構成は、昨年変更した二部構成を継承し、第1部では、討議に参加された政府および労使の代表から、ILO総会で行われた議論や日本が発信した内容についてご報告をいただいた。第2部では、2人の研究者から当該テーマにかかわるご講演をいただき、フロアからの発言も含めてディスカッションを行った。

共催のILO駐日事務所、後援の日本ILO協議会のご協力もあり、約110人の参加を得て、充実したシンポジウムとなった。両団体およびご登壇いただいた方々をはじめ、すべての関係者にお礼を申し上げたい。

（藤原 千沙）

第29回国際労働問題シンポジウム

グローバル・サプライチェーンにおける労働の課題

共催 法政大学大原社会問題研究所
ILO 駐日事務所
後援 日本ILO協議会

日時 2016年10月4日（火）午後2時～5時10分
会場 法政大学市ヶ谷キャンパス
ポアソナード・タワー（スカイホール）

プログラム

司会 法政大学大原社会問題研究所教授 榎 一江

■第1部

2016年第105回ILO総会第4議題「グローバル・サプライチェーンにおけるディーセント・ワーク」について

政府の立場から	厚生労働省大臣官房総括審議官（国際労働担当）	勝田 智明
労働者の立場から	連合総合労働局長	須田 孝
使用者の立場から	経団連国際協力本部参事	松井 博志

■第2部

講演「世界の縫製工場バングラデシュで何が起きているか——労働の課題と企業の挑戦」
茨城大学人文学部准教授 長田 華子

講演「労働CSRと競争力強化——ベトナム電子産業の事例からの検討」
関西大学経済学部教授 後藤 健太

パネルディスカッション

（注）肩書は2016年10月現在